

総合的な学習の時間

第3学年

育成を目指す資質・能力

【課題発見・解決力】【主体性・積極性】

【自己理解・自らへの自信】

単元名

お互いの命を守りあう(防災学習)

【単元の概要】

防災に対する関心が高まっている中、坂町内でも昨年6月、大雨により50箇所以上土砂崩れが発生し、避難所として指定されている中学校に避難してくる地域の方もいました。海や山に囲まれている坂町では、土砂災害や津波は他人事ではありません。こうした状況から、実際に防災訓練を自分たちで企画・運営し、主体的に行動する態度を育成するとともに、これまでの「守られる立場」から「守る立場」へと意識を変革させていきます。

学習指導要領における領域・内容
地域や学校の特色に応じた課題

他教科との関連

国語、社会、理科、技術・家庭、保健体育


◆単元の目標


- ・災害についての正しい知識と、防災の在り方について理解を深める。
- ・防災訓練の計画立案や災害ボランティアの学習を通して課題に気づき、その課題解決へ向けて他者と協働しながら、学び方やものの考え方を身に付ける。
- ・地域と連携することにより、家庭や地域社会の一員としての自覚を高め、災害時に行動できる実践力を培う。

◆単元の展開 (全30時間)

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
<p>情報の収集 (6)</p> <p>広島県や坂町の自然災害について出し合う。</p> <p>イメージマップを記入し、「防災」について思い付くこと、連想したことを基に課題を焦点化する。</p> <p>インタビューや出前講座等を通して、広島県や坂町の状況や取組を知る。</p>	<p>○昨年土砂崩れが50箇所以上あってこわかったね。 ○坂中学校に避難してきた人もいたね。 ○サンスターホールにも避難できるよ。 ○広島市でも大規模な土砂災害が発生していたよね。テレビで何度もみたよ。 ○大雨になったときに、「危ない!」と思ったことが何度かあるよ。</p> <p>自然災害が身近な問題であることを認識する。</p> <p>○理科の授業で大雨の時の映像を見たけど、積乱雲がもくもくと広がって、スピードも速かったね。そして、アメダスの動きを重ねて見ると、赤いマークが長時間留まっていたよ。 ○保健体育で習ったけど、災害の種類によって怪我の種類も違ってくるんだよね。どんな怪我にでも対応できるようにになりたいなあ。 ○技術・家庭では、地震が発生したら、まず扉やドアを開けることや、持ち出し袋を定期的に点検することなどが大切だと学んだね。 ○坂町では災害に備えてどんな準備をしているのだろう? 役場の人に聞いてみようよ。</p> <p>広島県や坂町では、どんな取組をしているのかわかりたくなる。</p> <p>○社会の調べ学習で、100年前に発生した土砂災害の石碑が二つの地区にあることが分かったね。 ○全国で広島県が土砂災害の発生が一番多いことが出前講座で分かったよ。 ○災害時には、住民みんなで助け合う必要があるね、自分達も力になれるかな。</p> <p>自分たちにも何かできることがあるのではないかと感じ始める。</p>	<p>■ 身近な地域の特色をまとめた取組を、キャリアノート中心に振り返らせる。</p> <p>■ 昨年度の3年生が行った防災学習の新聞記事や放映されたテレビ番組を観させる。</p> <p>○【理科】担当教員と連携し、「大地の変化」、「天気とその変化」との関連を想起させる。</p> <p>○【保健体育】担当教員と連携し、「自然災害による傷害の防止」との関連を想起させる。</p> <p>○【技術・家庭】担当教員と連携し、「災害に備えた住まい方」との関連を想起させる。</p> <p>■ 自然災害に関して、これまで他教科でどのようなことを学習してきたかを想起させる。 □ (配慮を必要とする生徒への支援) イメージマップでのつながりを意識させる。</p> <p>■ 生徒の情報収集する活動において、連携が必要と想定される外部機関等について、学年会で見通しをつけ役割分担する。</p> <p>■ 県や町の防災担当者と事前に連携し、それぞれの防災対策を把握する。</p> <p>■ 効果的な情報収集の方法を考えさせる。</p> <p>○【社会】担当教員と連携し、「自然災害と防災への取り組み」との関連を想起させる。</p>

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
<p>役場の人を招いてパネルディスカッションを行い、現状を理解したり、意見交換したりする。</p>	<p>○被災地では生死と向き合う場面があるんだ。 ○家族と連絡が取れないのは、たまらなく不安だよ。 ○保管室に図面があり、避難用具がどこにあるかがすぐ分かるよ。 ○避難所には福祉避難所等、いろんな種類の避難所があるんだね。 ○僕の家では災害時に持ち出し袋を用意しているよ。 ○人手が足りないこともあるんだね。 ○中学生も頼りにされているんだ。 ○避難所で、どのようなことが自分たちにできるだろう。 ○自分たちで避難所を作ってみようよ。</p> <p>中学生でも避難所で果たせる役割があることを知るとともに、先輩も避難所開設に取り組んできたことから、自分たちも避難所を開設してみたいという気持ちが高まってくる。</p>	<p>■災害や防災について調べたことをまとめさせ、防災について役場の人と意見交換させる。 ■事前に役場の人と連携しておき、「災害時は、避難所の人手が足りない。君たちの力が必要だ。」という趣旨の発言をしてもらい、生徒の意欲を喚起する。 □（配慮を必要とする生徒への支援）自分の家庭での取組を想起させる。 ■役場の方のコメントから、中学生として果たせる役割があることに気付かせる。 ■「守られる立場」という意識から「守る立場」という意識に徐々に変化していることに気付かせる。</p>
課題の設定（3）		
<p>「避難所を開設する」という課題を設定する。</p>	<p>○一番サポートを必要としている人は誰だろう？ ○僕たちや大人よりも、体の自由が利かないお年寄りや、小さい子供たちかなあ、昨年はお年寄りを避難させたよね。今回は小学生かな？ ○坂町は、三つの地区に分かれているね。</p>	<p>■課題を設定し、情報や知識を収集・選択・活用し、因果関係を推測したりして考え、課題解決に向かわせる。</p>
三つの地区で避難所を開設し、避難してきた小学生を守る方法を考えよう。		
<p>課題の解決に向けた方策について多角的、多面的に協議する。</p>	<p>○どのような活動ができるかな？ ○以前に取り組んだイメージマップを参考に深く考えてみよう。 ○課題を解決するためには、六つの活動に分類できたよ。（読み聞かせ班、受付・施設案内班、救護班、食料班、学習班、レク班） ○ところで、小学生のことをほとんど知らないな。 ○職場体験学習で小学校に行ったけど、すごく元気が良かったよ。でも、もっと小学生のことを知りたいな。</p> <p>小学生のことを知りたいという、新たな課題を発見し解決に向かう。</p>	<p>■グループごとに課題を解決するために必要な「ひと」や「こと」、「もの」は何かを考えさせる。また、なぜそれが必要なのか、説明させる。</p> <p>○【技術・家庭】担当教員と連携し、「野菜の調理を工夫しよう」との関連を想起させる。 ○【保健体育】担当教員と連携し、「応急手当の意義と心肺蘇生」との関連を想起させる。</p>
情報の収集（4）		
<p>小学生の生活実態を把握するため、小学校に行き、先生にインタビューしたり、参観したりする。</p>	<p>○とても元気がよくて、国語や算数でどんなことを習っているのか分かったよ。 ○よそ見をしたりしている児童を集中させる先生はすごいな。何かコツがあるのかな。</p> <p>収集した情報を精選し、課題解決に向かう。</p>	
<p>グループごとに課題を解決するために関係機関と連携し、必要なものに関する情報を収集する。</p>	<p>読み聞かせ班 ○読み聞かせでは、大きな声を出そう。 受付、施設案内班 ○各避難施設では、用具置き場の図面があったね。 救護班 ○三角巾1枚で様々な処置ができるんだ。 食料班 ○不安な時は、温かい食物がいいんだね。 学習班 ○小学校の教科書を参考に、問題をつくろう。 レク班 ○一人ぼっちを出さないようにしよう。</p>	<p>■防災について学んだことや小学校で収集してきた情報を基に、低学年児童の事態に応じた、取組を考えさせる。</p> <p>○【技術・家庭】担当教員と連携し、「私たちと家族・地域」、「幼児の観察記録」との関連を想起させる。</p>

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
	<p>ただ情報収集するだけでなく、より効果的になるよう考える。</p>	
<p>整理・分析（3）</p> <p>関係機関で収集した情報を基に活動内容を生徒同士で評価・改善しながら、課題の解決に向かう。</p> <p>※右欄の「→」は、各グループが情報収集により気付いた注意点や課題解決に向けての取組事項を表している。</p>	<p>読み聞かせ班 ○読み聞かせでは、大きな声を出そう。 →ボイストレーニングをして抑揚をつけよう。 →避難所にいるときの心情に配慮した本を選んだり、抑揚に気を付けたりした方がいいね。</p> <p>受付、施設案内班 ○各避難施設では、用具置き場の図面があったね。 →写真を撮って貼れば、実物がすぐに分かり速く持ち出せるよ。 →避難用具の「位置」、「名称」、「写真」がセットになるね。</p> <p>救護班 ○三角巾1枚で様々な処置ができるんだ。 →実際に小学生に巻いてあげよう。 →レジ袋が手袋がわりになるんだね。</p> <p>食料班 ○不安な時は、温かい食物がいいんだね。 →豚汁なら栄養価も高く、安価で、旬な野菜を使えるね。 →熱過ぎても食べにくいので、具材を小さくしてみよう。 →具材を小さくすると食べやすいし、火の通りが速くなるね。</p> <p>学習班 ○小学校の教科書を参考に問題を作ろう。 →採点のとき、○は大きくつけよう。</p> <p>レク班 ○一人ぼっちを出さないようにしよう。 →みんなで声をかけたり、参加人数を把握しておこう。 →気持ちを落ち着かせるために塗り絵も取り入れよう。</p> <p>「「してあげている」気持ちから、「してみたい」という気持ちに変化していく。」</p>	<p>○【国語】担当教員と連携し、「場面に応じて話そう—条件スピーチ活動—」との関連を想起させる。</p> <p>■相手との相違点や共通点を理解した上で、相手の思いを受けとめ、互いに高まり合わせる。</p> <p>■教師の手立て・声かけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうやったら不安が取り除けるだろう？ ・用具をすぐに取り出すためにはどうしたら良いだろう？ ・災害によって、けがをする個所が変わるんだよね。対応するにはどうしたらいいかな。 ・小さい子供が汁物を食べるときに、どんな苦労があるかな？ ・勉強でやる気を引き出すにはどうすればいいかな？ ・小学生のみんなが楽しく過ごせるようにしたいね。   <p>■まとめから課題解決に向けての改善策を焦点化する。</p> <p>■教師の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気になる内容の本ならば、避難所生活の苦しさや寂しさを、少し忘れることができるかもね。 ・いざと言うときに、すぐに用具を出すことができれば、被害を少なくすることにつながるね。 ・グループに分かれると効率も良くなり、集中力も高まるね。 ・容器が持ちやすかったら、こぼさないで済むね。 ・ヒントを出すと、諦めず最後までやり切れそうだね。 ・遊びたい子供だけでなく、落ち着きたい子供のことも考えているね。
<p>まとめ・創造・表現（2）</p> <p>グループで改善した活動内容をまとめ、分かりやすく全体に発表する。</p>	<p>○本も元気が出るような内容にしているんだね。 ○写真があれば、用具がどれなのかすぐ分かるね。 ○グループに分かれると、全員が体験できるんだ。 ○容器も持ちやすさを考えているね。 ○問題を解く時の、ヒントが3段階になっているんだ。 ○バタバタしないレクがいいね。</p> <p>「グループごとに進捗状況を説明し、共感し合う。」</p>	
<p>整理・分析（2）</p> <p>発表内容をお互いに評価し合い、改善する。</p>	<p>○壁側に読む人がいると、集中して聞いてくれるよ。 ○用具名にふりがなを付けたら読みやすいね。 ○体験の順番をはっきり決めた方がいいね。 ○こぼれたときを想定して雑巾を多めに用意するといいよ。 ○プリントに「できましたシール」を貼れば喜ぶかもね。 ○うまくいった時に拍手をするのはどう？</p>	

学習過程	児童生徒の思考の深まり	指導のポイント 他教科等との関連
<p style="text-align: center;">実行（6）</p> <p>三つの地区会場に分かれ、小学校低学年を対象に防災訓練を運営する。 六つのグループに分かれ、これまでの取組を生かし役割を果たす。</p>	<p>{よりよいものにしていこうという気持ちが出てくる。}</p> <p>○読み聞かせで、登場人物によって声色を変えたので、児童が身を乗り出して聞いてくれて嬉しかったな。 ○豚汁で具材を細かく切ったので、「食べやすい」と言って食べてくれたよ。 ○言う事を聞かない児童もいたけど、小グループに分けてプリントをしたから、最後まで頑張ることができたね。 ○止血の方法が分かってよかった。この経験を生かしていきたいな。</p> <p>{守られる立場から守る立場に変わっていることを実感する。}</p>	  <p>■ 自らの学びの高まりをメタ認知させるため、【知識】、【スキル】、【意欲・態度】、【価値観・倫理観】に対応した視点から振り返らせる。</p>
<p style="text-align: center;">振り返り（2）</p> <p>自分たちの取組を振り返るとともに、これからの生き方を考える。</p>	<p>○小さい子は何を考えているか分からないので苦手だったけど、小さい子の目線で、分かる言葉でしゃべってあげることが大切だと思った。 ○以前の自分だったら、災害でパニックになって人のことまで考えられなかったと思う。でも私たちより小さな子はもっとこわい思いをしていると思うから、私たちが笑顔で、優しく接することが大切だと感じた。 ○どの時間帯でも、どのような人でも、対応できるようにしないとイケない。 ○避難所での生活が長くなった時には、今回とは違う課題もたくさん出てくると思う。次はそこを考えてみたい。 ○被災した人々が、一日も早く通常の生活に戻れるよう、支援の在り方を考え、社会に訴えていきたい。 ○中学生でも、学習したことを生かして知恵を出し合い、力を合わせればお互いの命を守り合っていけることが分かった。</p> <p>{学習したことを生かして、地域のためにできることを考えている。}</p>	<p>○【社会】担当教員と連携し、「持続可能な社会に向けて」との関連を想起させる。</p>
<p style="text-align: center;">まとめ・創造・表現（2）</p> <p>文化祭でステージ発表・展示発表を行い、学校における津波による避難訓練の計画を立案する。</p>	<p>○地域の人たちに自分たちの取組を発表できてよかった。 ○次は、津浪を想定した訓練を計画しよう！</p> <p>{地域に発信することにより、自信が深まり、新たな課題に挑戦しようとしている。}</p>	<p>■ 地域の方に分かりやすい発表となるよう、表現を工夫させる。 □（配慮を必要とする生徒への支援） 地域の方の感想を基に、自分を見つめさせる。</p>

【児童生徒の変容】

この学習を通して、生徒は、今まで学習した知識・技能を活用しながら、何をどのように実行していくことがよりよい方法なのかを深く考えることができた。また、生徒は、「被災時に自他の命を守る」という課題を自分事として捉え、解決に向けて協働して取り組むことの良さを実感し、課題発見・解決力を高めることができた。防災訓練後には生徒から「自分たちでも、こんなにやれることがわかった」、「計画を立てるとき、いろいろな案があったがみんなで話し合ったことがよかった」等といった感想が出され、主体性・積極性が高まり、自らへの自信へとつながったと捉えている。また、キャリア教育の視点からも、文部科学省『中学校キャリア教育の手引き（平成23年3月）』に基づいた事前・事後アンケートでは、全ての項目で数値が上がったが、とりわけ人間関係形成・社会形成能力に係る事項の数値が上がったことから、生徒は「誰かを守る立場」としての自覚をもち、「お互いの命を守りあう」行動をとることができるように変革してきていると捉えている。